

『本能学区 防災まちづくり計画』の策定に向けて

【現状と課題】（これまでにみなさんに頂いた主な意見）

- ・路地が多い（細い路地は少ない）。特に子どもにとって貴重な遊び場となる路地空間は魅力的。
- ・歴史など、古い財産が残っている。人があたたかい。
- ・避難経路として、堀川通は安全。
- ・地元住人に（独居）老人の増加。木造住宅の被害は大きく、高齢者だけの世帯は避難が心配。
- ・空き家が増えている。
- ・「地域の集合場所」が周知されていない。「地域の集合場所」は、もっと現実的な避難場所がよい。
- ・回覧板で情報は回しているが、町内での情報共有が不足している。

【「防災まちづくり」のアイデア】

- ・町内ごとの避難計画をつくる。各町内会の行事に防災の内容を取り入れてもらう。
- ・防災マップの配布。「地域の集合場所」のステッカーを再度配って欲しい。
- ・町内の防災まちづくりのため町内マップを作つて自宅に置く。
- ・防災訓練は、定期的にやるべきだと思います。各町内単位での訓練が必要。
- ・町名簿の作成、高齢者・身体の不自由な方の把握。

《目指す将来像と
4つの目標》

便利で快適な暮らしを維持しつつ、 安心して暮らせる災害に強い本能

目標 1

ご近所、町内会の
繋がり、助け合いで
安全な「暮らし」
をつくる

目標 2

京都らしさを大切
にしつつ、倒れにくく
燃えにくい「いえ」をつくる

目標 3

日々の暮らしを
支え、災害時にも
安全に避難できる
「みち」をつくる

目標 4

地域の特徴を
活かした
安全な「まち」
をつくる

《目標 1》

◆隣近所、町内会の繋がりを育む

- ・住民のコミュニケーション、あいさつ、声掛け
- ・地域で知り合いを増やす、地域住民の連携

◆町内会の防災力を高める

- ・町内会の「地域の集合場所」や災害時の行動の確認・共有

◆「防災」を考える機会をつくる

- ・防災について地域で考える機会づくり
- ・一人ひとりの非常持出袋（防災袋）の準備

《目標 2》

◆自宅の安全性を高める

- ・家具の固定など、家の中の安全対策
- ・自宅の耐震診断、耐震改修

◆空き家の対策や民泊の対策を考える

- ・空き家を確認し、防犯・防災に備えた点検

令和3年度に『本能学区 防災まちづくり計画』を取りまとめる予定です。
引き続き、「防災まちづくり」へのご理解・ご協力をお願いします！

本能学区 防災まちづくり マップ

南ブロック
(蛸薬師通り南側)

本能学区では、令和元年度から災害に強いまちを目指し、
「防災まちづくり」に取り組んでいます！

学区と行政、専門家など様々な団体等が協力・連携して取り組んでいます。

防災まちあるき (R1.11.17)



実際にまちを歩き、身近な町内の現状や防災上の課題を確認し、防災性を高める対策を考えました。

総合防災訓練 (R2.1.19)

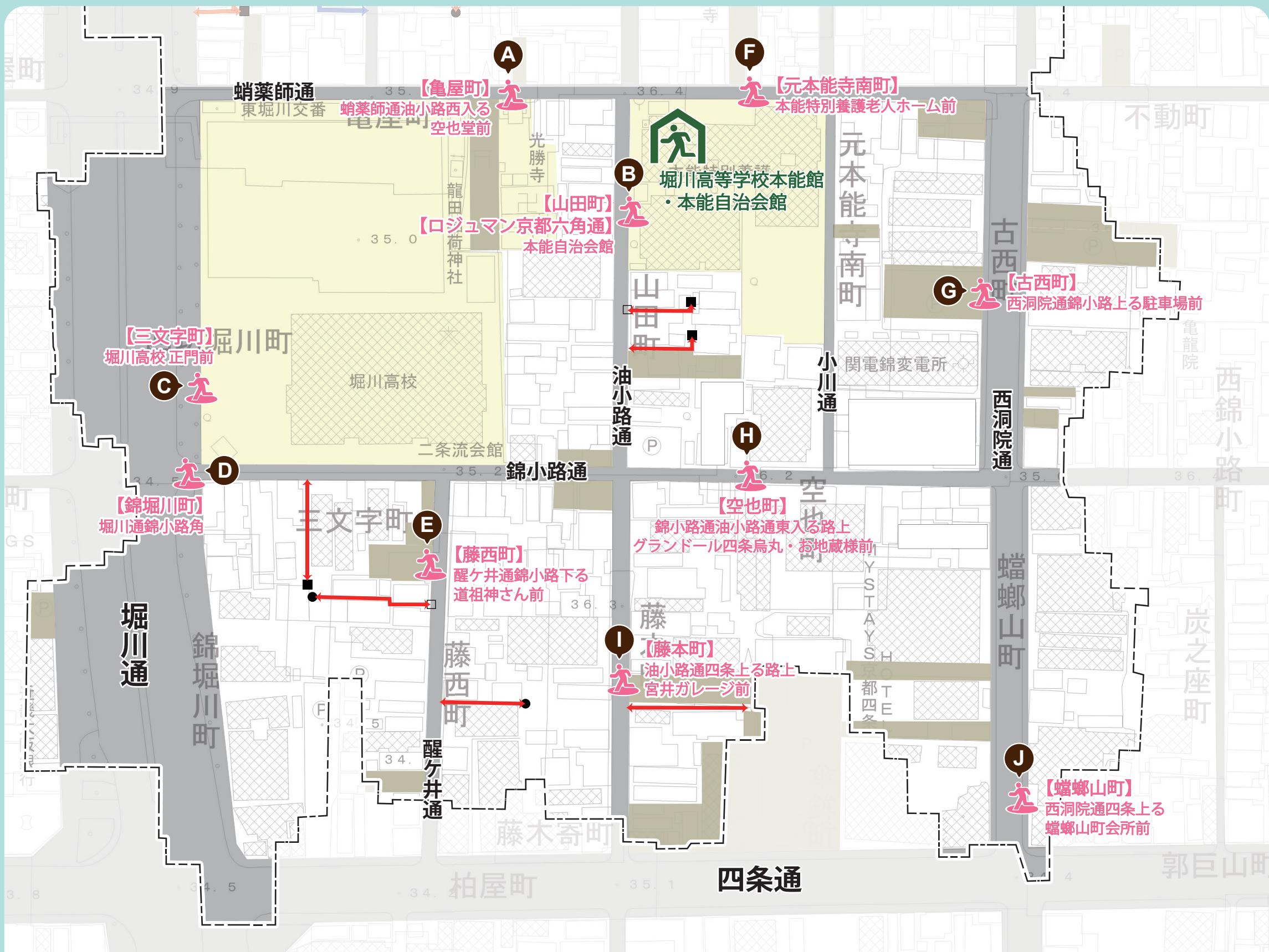


「避難所運営ゲーム」を通して、避難所運営の大変さを体感し、災害が起こる前から地域で考えておくことを明らかにしました。

防災まちづくりに関する アンケート調査 (R2.7-9)

本能学区を災害に強いまちにするため、住民のみなさんの想いや不安、学区や町内会や個人の役割分担など、「防災まちづくり」に関する考え方等をお聞きしました。

これまでの取組でみなさんに頂いたご意見・アイデア等も踏まえながら、
『本能学区 防災まちづくりマップ』を取りまとめました！



凡 例

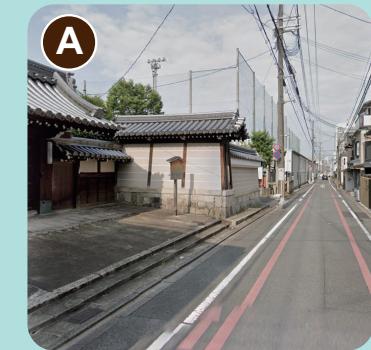
- 通り抜けができる路地
- 通り抜けができない路地(袋路)
- 袋路(突き当たりが建物)
- 袋路(突き当たりが塀・柵等)
- 袋路(突き当たりが扉)

- トンネル路地
- 地域の集合場所
(※令和3年3月現在)
- 避難所
(堀川高等学校本能館
・本能自治会館)

- 公園
- 神社・お寺・公共施設等
- 駐車場・空き地等

『地域の集合場所』とは

『地域の集合場所』は、大きな地震が起こった時に町内会の住民が集まり、安否や被害状況を確認する場所です。住民みんなで場所を共有し、周りの安全を確認しておきましょう。
※地震が起ってから30分を目安に集まるようにしましょう。



亀屋町の集合場所



山田町、ロジュマン京都
六角通の集合場所



三文字町の集合場所



錦堀川町の集合場所



藤西町の集合場所



元本能寺南町の集合場所



古西町の集合場所



空也町の集合場所



藤本町の集合場所



蟻蟻山町の集合場所